

“24の練習曲集” 第15番 — ストロークII —

作曲・編曲：南澤大介

Drop D Tuning (6th String=D) Capo=0



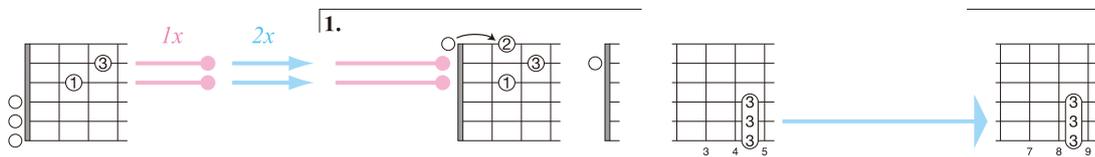
Intro Em D C D Em D C

Intro



A Em Cmaj7

A



D G B

24 Etudes #15 "strum (stroke) 2"

Music and Arrangement by Daisuke Minamizawa
BSVD-9826 n / ver.2.1.0

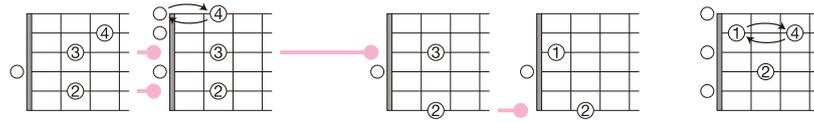
2.



Chords: Dsus4, D, Em, Cmaj7

Techniques: Ras., h.

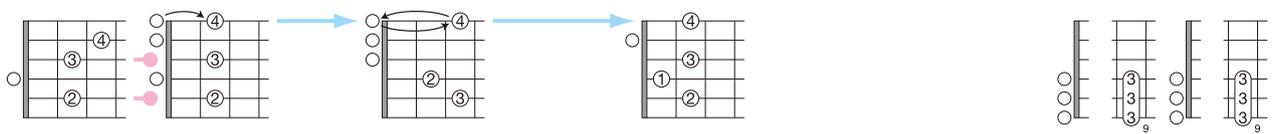
Tablature: 8 7 0 0 0 0, 8 8 7 7 0 0, 2 2 2 2 0 0, 0 0 2 2 0 0, 0 0 0 3 7 7 0 0



Chords: Cmaj7, Bm7, E7sus4, E7, Am7

Techniques: Ras., h.

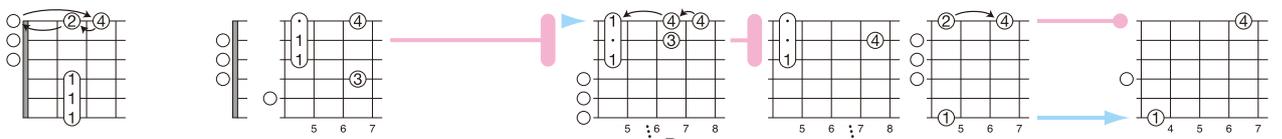
Tablature: 0 0 0 0 0 0, 3 3 0 0 2 0, 2 0 2 0 1 0, 1 0 2 0, 1 3 3 1 0



Chords: Bm7, Cmaj7, B7

Techniques: Ras., h.

Tablature: 3 3 0 0 2 0, 3 0 0 3 2 0, 3 0 3 2 0 2, 0 0 9 9 0 0, 0 0 9 9 0 0



C

Em Am D7 G

TAB

3 2 9 0 9 7 5 7 5 0 7 8 7 5 5 8 5 0 0 7 0 0 0 4

V V V V V V V V V V V V V V V V

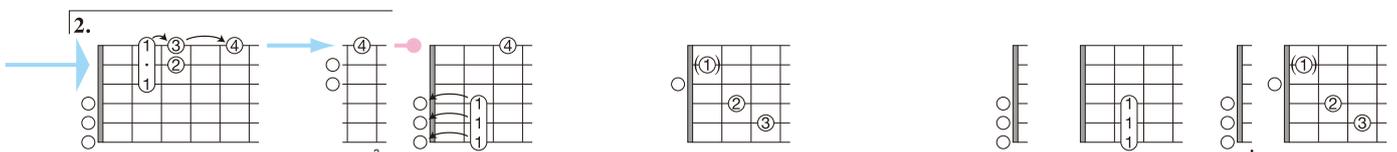


Em Am D G Gmaj7(onF#)

TAB

3 2 9 0 9 7 5 5 2 2 2 3 3 5 3 0 0 3 0 0 0 4

V V V V V V V V V V V V V V V V



Ending

D Em D C D Em D C

TAB

2 2 2 3 3 5 3 0 0 2 2 3 0 0 2 2 0 0 2 3 3 0

V V V V V V V V V V V V V V V V

“24の練習曲集”第15番 —— ストロークⅡ ——

- “24の練習曲集”第14番と同様に、ソロ・ギター・スタイルにおけるストロークを鍛えるための練習曲です。こちらは第14番よりもアップ・テンポで、激しいストロークになっています。
- 激しいストロークは、右手首の位置を固定気味にして、グーとパーを繰り返すようなイメージで行います。グーとパーといっても、動作をスムーズに繰り返す必要から、グーは緩く握る程度に。パーは完全に手のひらを開くのではなく、パーに行く途中くらい…主にストロークで使う指（右手中指、薬指など）が1弦を越えたあたり…で、開くのを止めてOKです。
- 縦長のXは、ブラッシング（ミュート・カッティング）です。押弦した左手を緩めるか、押弦に使っていない左手小指などで全弦に触れるなどして音を詰まらせ、ストロークします。
- ラスゲアドは、フラメンコで使われる奏法のひとつです。ストローク時に右手小指から人差指へ少しだけ時間差をつけて“ジャラララーン”とダウン・ストロークする弾き方で、楽譜では矢印の付いた波線と「Ras.」で表しています。
- ストローク時に途中の弦を弾かないよう記譜してある場合は、他の弦を押さえた左手指で触れて消音しましょう。例えば  4小節目は、6弦を押さえた左手人差指で5弦に触れ、音が出ないようにしておきます。

- **B**1～2小節目は6弦と4弦の音を出さないように注意しましょう。
6弦は右手親指を乗せるか、5弦を押さえた左手人差指の指頭で触れて、消音します。そして4弦は、5弦を押さえた左手人差指の腹で触れて、消音します。

- また**B**1～2小節目は、練習のためにわざと左手を開くフォームにありますが、届かない場合は次の譜例のように弾いてもよいでしょう。2つありますが、どちらでも構いません。また、2つ目の譜例では4～6弦10フレットを部分セーハするように記してありますが、部分セーハが難しい場合は、4弦10フレット・C音を左手中指、6弦10フレット・C音を左手人差指で個別に押さえ、5弦は6弦を押さえた左手人差指で触れて消音するようにしてもよいでしょう。

【音 源】	BSVD9826a、BSVD9826a_slow (スロー)
【録 音 日】	2014年7月30日
【使用ギター】	Morris S-131M
【使 用 弦】	Wyres CP1456M

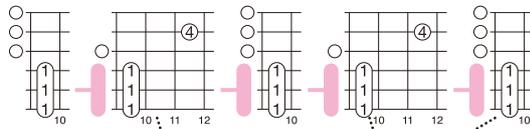


B Cmaj7

Ras.

TAB C

Ras.



B Cmaj7

Ras.

TAB C

Ras.

ダイアグラムについて

Diagram

この練習曲集では、左手の押さえ方や運指を示したダイアグラムを、五線譜の上に掲示しています。これは、おおまかな進行を含めた運指を記しており、たいていの場合は該当する音符の真上に図示してあります。スペースの都合で位置がずれる場合は、どの部分のダイアグラムか…を点線で示しています。

ダイアグラムでは、左端の○は開放弦、①は左手人差指、②は左手中指、③は左手薬指、④は左手小指、①は左手親指、①は右手人差指で押さえることを表しています。また、下の小さな数字はフレット番号です（ちなみに、弾かない弦や消音すべき弦に×は付けていないので、注意して下さい）。

一部のダイアグラム内には、指の動きを示す矢印も付記してあります。複数の矢印がある場合、指数字の上側のものは、下側のものより先に弾くことを表します (❶)。ただしこれらの矢印は指の動きだけを示したもので、図からイメージされる順序と演奏の順番は必ずしも一致していない場合もあるので、注意が必要です。また () 付きで示された音は、弾かないけれども押さえておいたほうがよい音を表しています (❷)。

ダイアグラムが記されたタイミングでは弾きませんが、その前に弾いていた音が伸びている場合、押弦して出す音に関しては指数字を記してあります (❸)。ただし、開放弦による同様の音に関しては、特に○を付記していません。

また、フォーム・チェンジなどの際に、“移動の軸にできる左手指”や“押さえたままにすると移行が楽になる左手指”がある場合、ダイアグラムどうしの間を線で結んであります。移動の軸にできる指は矢印 (❹)、押さえたままの指は先端が丸の線 (❺) で示しています。ダイアグラムの同じ弦に複数の指が書かれている場合、基本的に線の左側のダイア

グラムでは動作の最後に押さえた指、右側のダイアグラムでは動作の最初に押さえる指が、軸になる指 (または押さえたままの指) となります。そうではない場合は、線上に指数字を記してあります。たとえば**6**の例では、Dm7で1弦3フレット・G音を押さえる時にも1弦1フレット・F音を押さえたままにし、それ (と3弦) を軸にしてEm7へ移行しています。

The image illustrates guitar chord changes with diagrams and notation. The top section shows a C chord (1-3-0-0) and a C to G(onB) transition (3-2-0-2 to 2-0-0-0). The bottom section shows a Dm7 to Em7 transition (1-3-0-2 to 3-4-5-0) and a C to Am transition (0-2-3-0 to 3-2-2-0). Fingerings are indicated by circled numbers 1-5.

Top Section:

- Left:** C chord diagram (1-3-0-0) and notation. Treble clef, C4 quarter note, G4 quarter note, F4 quarter note, C4 half note. Bass clef, C3 quarter note, G3 quarter note, F3 quarter note, C3 half note.
- Right:** C to G(onB) transition. Diagrams show C (3-2-0-2) and G(onB) (2-0-0-0). Treble clef, C4 quarter note, G4 quarter note, F4 quarter note, C4 half note. Bass clef, C3 quarter note, G3 quarter note, F3 quarter note, C3 half note.

Bottom Section:

- Left:** Dm7 to Em7 transition. Diagrams show Dm7 (1-3-0-2) and Em7 (3-4-5-0). Treble clef, Dm7 quarter note, Gm7 quarter note, Fm7 quarter note, Dm7 half note. Bass clef, Dm7 quarter note, Gm7 quarter note, Fm7 quarter note, Dm7 half note.
- Right:** C to Am transition. Diagrams show C (0-2-3-0) and Am (3-2-2-0). Treble clef, C4 quarter note, G4 quarter note, F4 quarter note, C4 half note. Bass clef, C3 quarter note, G3 quarter note, F3 quarter note, C3 half note.

譜面について

Music score

この練習曲集では、音楽においてメロディが重要であるという観点から、メロディは音符の棒や旗を上向き、伴奏は下向きに表記して、区別しています（ただし、かえって煩雑になる場合、違う分け方をしている場合もあります）。

伴奏は基本的に、次のコード・チェンジまで音を伸ばします。特に押弦して弾く音の場合、“音を出したからOK”とコードの途中で離してしまうのではなく、フォーム・チェンジに支障がない程度にぎりぎりまで押さえておくことが大切です。下記の例の場合、本楽譜では**a**のように記譜してありますが、実際には**b**のように、同じコードの間は伴奏の音を伸ばしておきます。

a

C G(onB)

b

C G(onB)

例えば次の例**c**の場合、Cの間は5弦3フレット・C音と4弦2フレット・E音を、Gの間は6弦3フレット・G音を、押さえたまま弾いています。逆に言えば、例えば薬指1本だけで5弦3フレット・C音→2弦3フレット・D音…と押さえていくと**d**、2弦3フレット・D音を押さえるために5弦3フレット・C音が途切れることになるので、そのような運指は避けましょう。

c

d

cのカッコで囲われた伴奏の休符は、記譜の都合によるもので、意図的に音を切るわけではありません。基本的には、その前に弾いた伴奏（特にベース音）などを伸ばしておきます（**f**は実際の演奏のイメージ）。譜例の場合、2拍目と4拍目ウラでは、直前の伴奏である3弦開放・G音は同じ弦でメロディを弾くために止まりますが、ベース音の5弦3フレット・C音（小節前半：C）や6弦3フレット・G音（小節後半：G）は、押さえたまま伸ばしておきます。

e

f

消音について

Mute

ソロ・ギター・スタイルにおいて、音の長さをコントロールしたり、必要のない音を出ないように止めることを、筆者は「消音」と呼んでいます。

消音の度合いは、曲中における音の役割…その音がメロディか伴奏か…によっても異なっており、筆者の場合メロディは同時に1音しか鳴らないよう、ほぼすべて消音しながら弾いています。これは、筆者が音楽の中で最も重要だと考えるメロディをはっきりと演奏するため、強弱の付け方とともに演奏上の重要なポイントです。また伴奏に関しては、コードの変わり目で音が残っていると汚くなる場合、意識してその音を止めるようにしています。

消音の具体的な方法は様々で、左手の空いた指や指の腹、付け根などで弦に触れたり、右手の空いた指を弦に乗せたりして行います。筆者は主に右手で消音を行っていて、右手のどの指でどの弦を弾くかを決めており、指を弦に乗せた状態を基本として、音を出したい時だけ指が弦から離れるようにイメージしています。

「イメージ」という言葉を使ったのは、実際にはソロ・ギター・スタイルの場合、伴奏は（次にコードが変わるまで）音を伸ばしたいため、伴奏として使う音は基本的に消音しないからです。そのため、同じ弦…たとえば3弦でも、メロディの流れの中で登場した場合は次のメロディを弾く時に消音しますが、伴奏として弾いた場合は次のメロディを弾く時に消音しない…といったケースも有りえるのです（もちろん、強弱の付け方も異なります）。

消音に特化した練習曲として、この練習曲集には第20番や第21番がありますが、筆者は基本的にはほぼ必ず消音を使って演奏するので、他の

